

BIO-City特集

「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

West Philadelphia Landscape Project

西フィラデルフィア・ランドスケープ・プロジェクト

大学の教育を通じた環境問題と社会問題の改善

構成・取材/高山啓子 ◆ (株)ケイ高山プランナーズ
協力/アン・ウィストン・スパーン Anne Whiston Spirn
ペンシルバニア大学 University of Pennsylvania



米ペンシルバニア州、西フィラデルフィア地区において、**WPLP**と略される(West Philadelphia Landscape Project) 壮大なプロジェクトがある。住民はもとより、大学生、中学生を巻き込み、ランドスケープを回復させることによって、コミュニティの再生を図るものである。ペンシルバニア大学が中心を担うこのプロジェクトは、今年で13年目を迎え、着実に成果をあげている。美しい景観づくり、コミュニティサービス、教育という3つの目標を軸に、様々な活動が展開されている。

West Philadelphiaはスクーキル川の西側に位置している。対して、センターシティ及びダウンタウンは、デラウェア西岸から、西側のスクーキル川までの間に展開している。囲んだ部分はペンシルバニア大学キャンパス。青の線が元の川の流路で、オレンジがミルククリークの流路である。現在は暗渠となり、下水管に化している。



WPLPの事業の一環としてつくられたコミュニティガーデン「アスペンファーム」

BIO CITY 【バイオシティ】
1999 / no. 17

p57-p67

West Philadelphia Landscape Project
西フィラデルフィア・ランドスケーププロジェクト

Published by Bio City Ltd.
発行：株式会社 バイオシティ

プロジェクトの背景

Background

① 谷底を通る街路(44丁目通り)。地下をミルククリークが流れている。フィラデルフィアの商業地区を東に臨む。

② 廃屋と共存する良好な住区。

③ 大学をあげてのキャンパス・ランドスケープ・プロジェクトによって、ペンシルバニアの広大なキャンパスに花と緑のグリーンウェイが誕生した。今や、アメリカの大学生たちの羨望的となっている。

空き地の再開発

Redevelopment of Vacant Lands

④ 空き地だった土地を菜園に変えた。

⑤ コミュニティガーデンで収穫をする人。「私たちにとって、ここは息抜きの場所です。セラピーです。ガーデンにいるあいたは、葉がいらないうから」と語る。

アスペンファーム

Aspen Farm

⑥ ミルククリーク地区につくられたコミュニティガーデンの「アスペンファーム」。中学生が見つけた池を見るアン・スパーン教授(右)。

中学生の都市デザイン

Sulzberger Middle School

⑦ ペンシルバニア大学とザルツバーガー中学校の授業を通しての交流。

⑧ ザルツバーガー中学では、クラスメートとこの町(ミルククリーク)の未来像について考え、知恵を出し合い、家や庭のデザインまで自分たちで提案をつくる。

⑨ 未来都市コンペに参加したザルツバーガー中学校の生徒たち。ペンシルバニア大学院景観工学部の学生及びエンジニアとグループを組み、シムシティというコンピュータソフトを使って未来都市をデザインした。



① ②
③



④



⑤

BIO-City 特集

「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

West Philadelphia Landscape Project

教育を通してのランドスケープ改善

西フィラデルフィア地区は、たくさんの空き地を抱えている。1950年以降、住宅の老朽化、道路の陥没、地盤沈下が起こり、公共投資も十分でなく、荒廃が進んだ。

この地域にはかつてミルククリークという小さな川が流れていたが、川を暗渠にして、その上に住宅、道路が建設された。その後、管渠の老朽化、崩壊が進んだために、少しの雨でも多くの家の基礎や地下が浸水してしまう。その結果、空き地が増えてしまったのだ。

貧困、失業、住居の劣化、インフラは西フィラデルフィアの住民にとって、差し迫った問題である。景観の視点から、都市の生活の質を改善する本格的なプロジェクトの立ち上げが必要であった。

そこで、WPLP(西フィラデルフィア・ランドスケープ・プロジェクト)が1987年に始められた。

ペンシルバニア大学景観工学・地域計画学部、フィラデルフィア・グリーン、組織管理グループ、西フィラデルフィア・パートナーシップの4組織が、J.N.Pewチャリティー・トラストから承認を得て、「WPLP & Greening Project(緑化事業)」に共同で取り組んだ。

1991年、このプロジェクトの基金が終了したが、WPLPの活動はますます盛んになっている。

WPLPの最大の特徴は、ペンシルバニア大学が地域に積極的に働きかけをしていることである。大学は、環境問題と社会問題が複雑に絡み合う地域の改善は、住民、学校、市、様々な機関が協力しなければ達成しえないと早くから認識していた。

まず、地元住民が地域を知り、自主的にプロジェクトに取り組むような姿勢をもたせることが必要であった。そのため、大学は地元の中学校にアプローチし、共通のカリキュラムを組むことで子



⑥



⑦ ⑧ ⑨



空き地の再開発

Redevelopment of Vacant Lands

空き地が多いと一口に言っても、様々なタイプがある。ブロック丸ごと、抜けた歯(1列に並んでいる家並みにぽっかりと空いてしまう場合)、スイスチーズ(虫食い状のもの)など、それぞれに合った土地利用方法を考えなくてはならない。緑化事業としての公園造成や並木をつくるにとどまらず、大通りや脇道、みんなの集まる場所も都市を構成する要素の一つと考え、デザインしている。新しいビル、プライベートガーデン、コミュニティガーデン、寄り合い場、遊び場、野球場、アウトドアワークショップ、青空マーケット、駐車場、通り道、果樹園、牧草地、洪水管理施設などが提案されている。特にコミュニティガーデンに力が注がれている。

① プライベートガーデン。きれいに植栽されていて通行人の目を楽しませる。

② 建物と建物のすき間にできた空き地を利用して緑化した通り道。

③ 古タイヤの植木鉢。花園として地元住民に親しまれている。

④ 緑化のあと。道路に表情をあたえる。

⑤ 空き地になってしまった土地。手を加える前。

⑥ 空き地を利用して菜園をつくった。壁にも絵を描いて、ずっと魅力的なコーナーになった。

⑦ 樹木をきれいに刈り込んで、憩いの場をつくった。

⑧ ⑨ ペンシルバニア大学生が提案する空き地の利用方法。ミーティング・プレイスと公園。

①
②
③
④
⑤



BIO-City 特集

「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

West Philadelphia Landscape Project

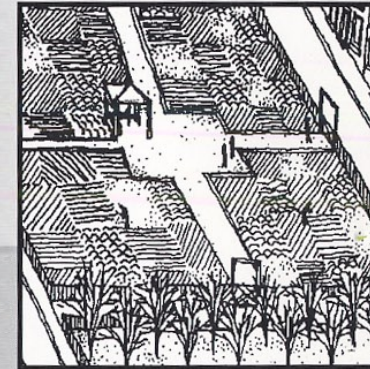
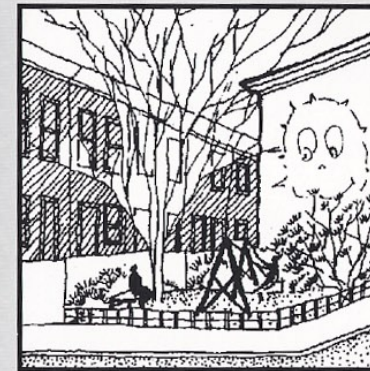
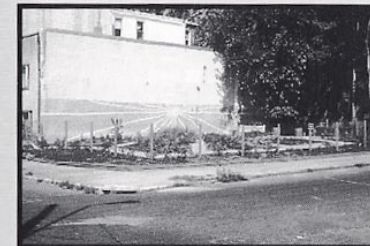
供たちの啓蒙に努めた。ペンシルバニア大学とザルツバーガー中学校の交流の始まりである。大学院生と中学生が協力し合って、地域の歴史、自然環境を調査し、データベースにまとめ、空き地のデザインに取りかかった。子供たちから、ウォーターガーデンやミニチュア・ゴルフコースなど、ユニークなデザインが提案された。子供たちの意識が高まるにつれ、学校の教師、両親、コミュニティリーダーへと波紋は広がっている。

教育を通して、ランドスケープの改善が進められる。学生たちは、空き地の様々な利用方法を考える。新しいビル、プライベートガーデン、コミュニティガーデン、寄り合い場、遊び場、野球場、アウトドアワークショップ、青空マーケット、駐車場、抜け道、果樹園、牧草地、洪水管理施設など、空き地の形態によって最適なものを選ばれる。

安らぎを与える景観として緑を増やす動きが主流であるが、そのなかでもコミュニティガーデンが、緑化とコミュニティの再生を同時に解決するものとして、さかんにつくられてきている。数としては60以上だ。

代表的なものが、アスペンファームである。1975年につくられたアスペンファームは、WPLPで、ペンシルバニア大学の学生により新しくデザインし直された。また、ザルツバーガー中学校がカリキュラムに使う学び場として、生徒を受け入れている。中学生はここに菜園をもち、度々訪問する。アスペンファームには、12歳から100歳まであらゆる年齢層が集まり、ガーデニングを一緒にしたり、話をしたりする。

西フィラデルフィア地区では、地元の住民が自らその場所を知ることによって、場所に愛着し、改善をしようという意識をもつようになった。ボトムアップとアップダウンの両方の側から包括的に進めていくことが、根本的な解決につながるのである。



⑥
⑦
⑧
⑨

アスペンファーム

Aspen Farm

アスペンファームは、ミルクリーク地区の空き地を半ブロックほど使ってつくられたコミュニティガーデンである。廃屋や管理のあまり良くない公共住宅に囲まれた場所にあり、いつも40人以上の園芸愛好者たちが、農園生活を楽しんでいる。1988年、WPLPの事業の一環として、菜園所有者の要望に応じてメインストリートが敷地内につくられた。そこにベンチを設置し、休んだり、おしゃべりをするための空間となっている。デザインはペンシルバニア大学の学生が担当し、以降、WPLPを通して、住民と大学生が交流するようになった。

また、ザルツバーガー中学校のカリキュラムに場所を提供するようになって、アスペンファームはさらに活気を帯びてきている。



①
② ③
④

① アスペンファームの菜園。壁面もあり、明るく開放的な雰囲気である。

② アスペンファームの菜園の所有者。

③ 敷地内でディナーパーティーを楽しむ近所の人たち。

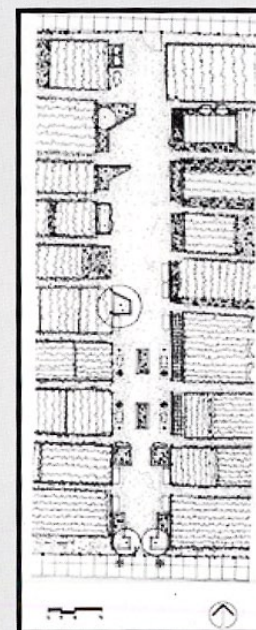
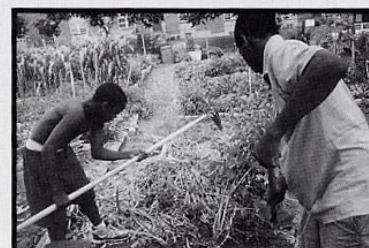
④ 建設中の池。町の住人、中学生、それにペンシルバニア大学生の協働によって、新しく作り変えている。

BIO-City 特集

「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

West Philadelphia Landscape Project



⑤ ⑥
⑦ ⑧

⑤ ザルツバーガー中学校の菜園づくり。協力してプロット内の除草作業をする。

⑥ 完成した池。中では水生植物が育てられている。周りも花で囲まれ美しく飾られている。

⑦ 熱心に作業をする中学生たち。

⑧ リ-デザイン（設計のし直し）は、ペンシルバニア大学のジョン・ウィドリックのデザインが採用された。畑の所有者たちは急激な変化は嫌がるし、自分の畑に思い入れがあるため、畑の配置換えやプロットの減少は大きな問題であった。彼のデザインは、メインストリートをつくり、集ったり憩ったりする場所を提供するものであった。

中学生の都市デザイン

Sulzberger Middle School

ザルツバーガー中学校はミルクリーク近隣住区内にあり、西フィラデルフィア活性化区域の心臓部に位置している。この学校は、ミルクリークの昔の氾濫原に接している。現在、ミルクリークは下水管の中に埋められているものの、たび重なる氾濫と地盤沈下はもたに地元住民の悩みの種となっている。子供たちは、学校周辺の空き地やコミュニティガーデンに出かけていき、地域開発や水資源の管理について学ぶ。

1995年以來、ペンシルバニア大学とパートナーシップを結び、ミルクリーク・プロジェクトを実施している。その内容は、中学校周辺を実地調査し、ランドスケープ改善についてアイデアをだし、地域のコミュニティ活動に参加するものである。調査のツールとして、昔の地図や写真、税金の記録、人口調査、鉄道時刻表、都市計画などを使用する。学生たちは、ミルクリークプロジェクトの実践において、数学や科学を社会に応用することによって、より知識を深めている。

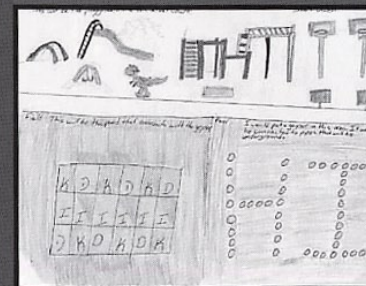
①
②
③



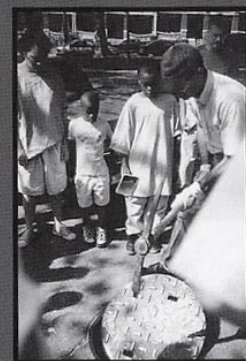
① ② ③ 「都市景観の変遷」
「場所の力」

“Transforming the Urban Landscape”
“Power of the Place”

「都市景観の変遷」、「場所の力」というカリキュラムが大学と共同で毎年開かれている。水と学校と歴史をテーマに、年代を追って人口調査を行い、川流域の模型をつくって地勢を確認し、水管理、土地利用の変遷をフィールドトリップを通して学ぶ。調査をした後は、空き地をデザインする。1996年にはウォーターガーデンが、次の年にはミニチュア・ゴルフコースが提案された。研究発表は、ペンシルバニア大学で開かれたシンポジウムで行われた。中学生が描いたポスターはフィラデルフィア都市資源パートナーシップ会議の開催中、ペンシルバニア・コンベンションセンターに展示された。



④



⑤
⑥



④ 流域の模型づくり
Watershed Model

川の流域の模型をつくり、高い地点と低い地点を立体的に把握する。これにより、子供たちは校舎の一部が雨で水浸しになってしまう原因を知ることができる。

⑤ ⑥ ミルクリーク・フィールドトリップ

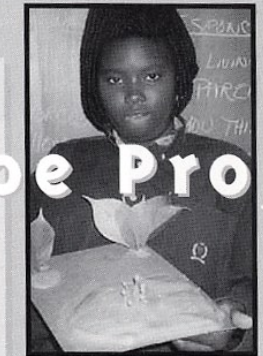
Tracing the Mill Creek Field trip
ミルクリークをさかのぼり、本流のスクーキル川を見学しに行った。フィラデルフィア水管理局の人が同行し、下水システムを見せてもらっているところ。

BIO-City 特集

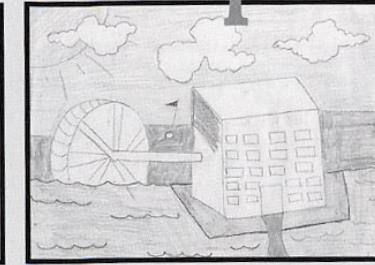
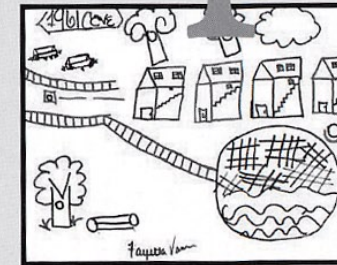
「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

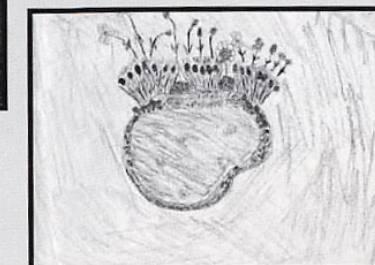
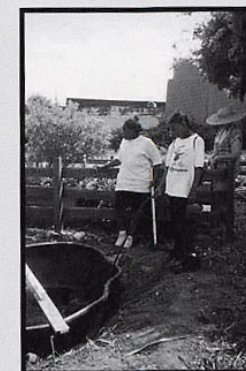
West Philadelphia Landscape Project



⑧ ⑨ ⑦



⑩ ⑪
⑫



⑬
⑭ ⑮



⑦ ⑧ ⑨ ミニチュア・ゴルフコース

Miniature Golf Course
かつては古い水車があった場所は、今、ゴミ捨て場になって、草が生えて放置された空き地となっている。中学生たちは、そこをミニチュア・ゴルフコースをつくることを提案した。授業で学んだ水の管理を意識してデザインしている。

⑩ ⑪ ⑫ バタフライガーデンと池

Butterfly Garden and Pond
アスペンファームにバタフライガーデンと池をつくった。バタフライガーデンは様々な種類の蝶のすみかになるようにする。池には魚やカエルを放す。デザインから仕上げまで、みんなで協力してつくった。

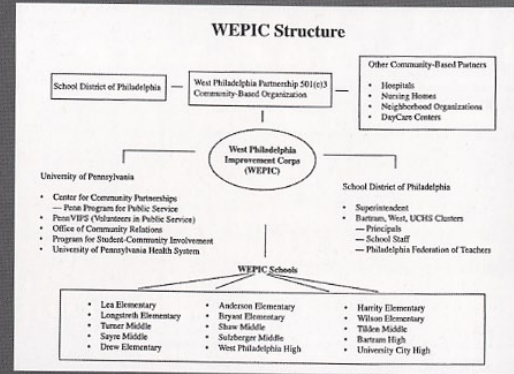
⑬ ⑭ ⑮ 菜園とコンポスト置き場

Vegetable Garden and Compost Bin
アスペンファームのプロットを借りて、菜園をつくった。授業のたびにここを訪れ、手入れをする。休日には、子供が家族を連れてやってくることもある。コンポスト置き場は、菜園にとって必要なものである。セメントを使ってポールを立て、きれいに色を塗ったフェンスで囲ってつくられた。

インタビュー

アン・ウィストン・スパーン教授に聞く

1987年にスタートしてから13年目。
きわだった成果が見られるのは、
子供たちへの教育的な効果です。



① ②



Q. WPLPはどのようにして始まったのでしょうか。

A. ペンシルバニア大学におけるキャンパスのランドスケーププランを社会問題、環境問題の解決に応用できるのではないかと大学総長の提案がきっかけでした。折しも、キャンパス北西側に隣接するミルクリーク地区では、洪水、地盤沈下などにより、空き地や遺棄された住宅の増加、地域社会の崩壊が進んでいました。この地区は主としてアフリカ系住民が住み、貧しい地区となっており、このあたりを境に町の風景は大きく変化するのです。

Q. プロジェクトの哲学と手法は？

A. ミルクリークの問題は、深刻な社会問題と複雑にからみあって進んできたものです。貧富の差、人種問題など、米国社会の歴史的な経緯と深く関係しています。したがって、“ランドスケープ”“環境”といった切り口だけでなく、社会問題の解決という視点を取り入れることは、問題の根本的な解決にとって必要不可欠です。

このような複合化した問題を解決するには、地域の人々が問題をしっかりと認識し、これに自ら立ち向かおうという意欲と姿勢をもつことが重要です。いった

いどうすれば、意欲をもつだろうか。いろいろ考えたり、試したりした結果、地域の子供たちを教育史、大学の教員、学生らがコミュニティの大人たちと一緒に問題の解析、認識、さらには解決の手法を考えていくという方法にたどり着きました。

Q. ペンシルバニア大学は、このプロジェクトにどのように関わっているのでしょうか。

A. プロジェクトの企画、運営に関しては、ランドスケープ学科の教員と学生が、また大学と地域社会との仲介役、資金的なサポートに関しては、大学内の公共サービス担当部門（Penn Program for Public Service）がこれに当たりました。

Q. スパーン教授は、どのようにこのプロジェクトに関わられたのでしょうか。

A. 私は、まずはじめに、問題の実態を正しく認識することが重要であると考え、学生の研究プロジェクトの第一段階として、この地域の自然及びコミュニティの歴史的な変遷を把握し、これをわかりやすく図や表にまとめるように指示をしました。それから、コミュニティに対して積極的に働きかけを行いました。

た。コミュニティリーダーや学校、その他の公共機関の核となっている人々と話し合い、問題解決をめざした組織づくりやその運営などの相談にのったり、アドバイスするなどして、コミュニティの人々が自ら問題解決に取り組むように働きかけました。

Q. このプロジェクトに関するデータベースをつくったそうですが、それはどのようなタイプのものでしょうか。また、それをどのように活用しているのでしょうか。

A. 一つは、地域の自然環境、社会的環境について、その変遷と現状、問題点などを系統的に整理したものです。そしてもう一つは、地域の中学校の生徒を対象とした環境学習プログラムの開発に関するものです。

前者については、コミュニティリーダーをはじめ、地域の人々が、自分たちの生活環境に対する認識を深めるとともに、この問題に積極的に取り組もうとする意欲を開発するツールとして使っています。また、大学当局、民間活動組織、市や州などから、資金その他に関して支援をおおく際の説得材料としても活用します。

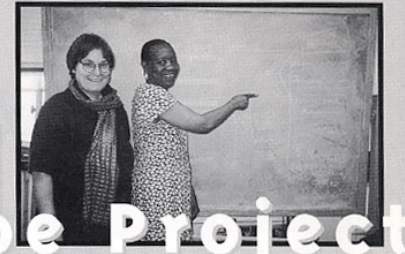
後者については、中学校の教員や生徒及び親たちに、必要な情報を提供し、教

BIO-City 特集

「都市と農村の結婚」

コミュニティの再生と新しい農のかたち

West Philadelphia Landscape Project



育プログラムの開発、実施に役立てるとともに、市の教育委員会や州、連邦政府などへの予算などの要求の際にも利用します。

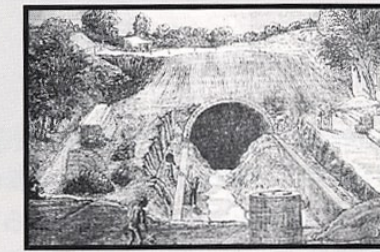
Q. 中学教育の力点は、また、大学では？

A. 中学校の教育の中では、生徒たちが自ら課題について考え、積極的に取り組むといった自主的な学習意欲の開発と、問題解決へ向けての行動及び実践に重点が置かれています。

また、大学院生の教育については、このプロジェクトを企画から調査、計画案の作成などを行っていく過程で、コミュニティのメンバー、活動をサポートする民間団体や自治体との協力のしかたなどを学んでもらいます。また、情報処理能力を高めるとともに、デザイン的な提案力や問題解決能力を高めるなどの点に主眼が置かれています。

Q. WPLP活動の経過及び成果は。

A. このプロジェクトが1987年にスタートしてから今年度で13年目に入ったのですが、この間にいくつかのきわだった成果が見られました。最も顕著だったのは、子供たちへの教育的な効果です。



プロジェクトが進むにつれて、子供たちは、これに強い関心を示すようになりました。この活動を始めた当初、地区内の中学校の生徒たちに、「あなたたちは将来、大学へ進学するつもりか」と尋ねたところ、あるクラスでは1人しかイエスと答えませんでした。しかし、第一期の活動が終わった4年後に同様の質問をしたところ、1人を除き、他は皆、大学へ進学したいと答えました。また進学したいと答えた生徒の半数は、自分は将来、ランドスケープ・アーキテクトになりたいといいました。このことからわかる通り、子供たちが希望と意欲、自分の町などに関して、誇りを抱くようになったのです。

また、中学校の先生たちについても大きな変化と成果が見られるようになりました。活動を開始するとまもなく、先生たちが自ら地域に根ざした環境教育プログラムに積極的に取り組むようになりました。

このような教員の教育意欲の増大は、子供たちにも大きな影響を与えます。生徒の親たちにも波及は広がり、コミュニティリーダーを中心に、子供たちの親などが、協力し合って、コミュニティガーデンづくりなどの様々な活動を推進する力となりました。

プロフィール ● アン・ウィストン・スパーン
Anne Whiston Spirn ペンシルバニア大学景観工学・地域計画学教授、及び都市学プログラム・ディレクター。研究と教育とコミュニティサービスを統合した西フィラデルフィア・ランドスケープ・プロジェクトの中心人物である。著書「The Granite Garden」、「The Language of Landscape」は欧米をはじめ世界各地の専門家や市民の間で高い評価を受けている。

③ ④ ⑤

① 大学、住民、学校、市、国が協力して立ち上げたWEPIC（西フィラデルフィア環境事業体）の構成。様々な機関やコミュニティリーダーと協議の末、市民の教育普及、啓発からスタートさせるのが、最も効果的であると結論づけられた。WEPICで行うのは、24時間365日運営のコミュニティスクールの開設である。教育、社会サービス、健康、レクリエーションと地元のニーズに応えるものである。

② 地域の荒廃は劣悪な環境をもたらす。人通りも少なく、通りに活気が感じられない。

③ ミルクリークの浸食作用によって、住宅の基礎が沈下している。

④ ミルクリークを地下に埋めている当時のイラスト。

⑤ 左、アン・スパーン教授。右はWPLPのコミュニティリーダーであるウォーカー・ボニーさん。麻薬撲滅運動などでも活躍している。